

■平成29年度第2回会津美里町観光まちづくり推進協議会議事録

日 時：平成30年2月9日（金）15:00～16:00

場 所：会津美里町役場本郷庁舎3階301会議室

出席委員：石原委員、長谷川委員、高梨委員、鈴木委員、小林委員、阿部委員、竹内委員（計7名）

（欠席委員：山田委員、星野委員、柴崎委員）

事務局（会津美里町商工観光課）：立川課長補佐、高橋係長、小林主任主査、川田主任主査

1. 開会（副委員長 長谷川委員）

これより平成29年度第2回観光まちづくり推進協議会を開会する。

2. 委員長挨拶（石原委員）

私どもの推進協議会は、いくつかの役割を持っている。そのキーワードは3つある。1つ目はその利用計画の策定、2つ目は評価、そして3つ目が推進するというのがこの委員会の役割である。この中で評価、推進というところが今の私どもの仕事となるので、報告を受けながら後ほど皆さんから忌憚の無いご意見を頂戴したい。

3. 議事

<事務局>

（1）平成29年度の事業実施状況

（事務局より資料説明）

<委員長>

説明の中で、事務局が勘違いされてと思うのが、観光百人衆は百人集めるって意味ではない。「百人」は名称である。現在35名も集まっているのは、数としては十分。今人口2万1千人くらいで、そのうち35人も発信する人もいる。年齢構成から考えれば35名は少ない数でもないし、百人衆だから百人って意味では無いとご理解いただきたい。現実的に名前だけで発信しない方が百人衆でも問題なので、そこはこだわる必要がない。

<事務局>

百人衆35名を対象にワークショップを開催しているが参加者が少ない。35名のうち、参加する方は決まっている。時間的に余裕がある人や、日中時間が取れる人が多く、お母さん達や、こらんしょ woman 達とかにもっと参加して欲しいが、お母さん達は時間的に参加が難しいので、開催方法についても考えていかななくてはならない。

<委員長>

民泊についていくつか出ているが、美里町で民泊をやる方はいるか。

<事務局>

まだ把握はしていない。この民泊制度運営システムは、届け出開始が3月15日からである。登録された方をこちらで確認できるシステムなので、様子を見ながら状況把握をしていく。今の段階では町でも状況把握は出来ていない。

<委員長>

色々な観光プロモーションを実施していくにあたり宿泊があった。今の場合は、もう宿泊施設を作ってまでやる必要はない。周辺に泊まってもらえばいい。ただ民泊の制度が出来た以上、美里町に泊まることが可能になった。そこをどう考えるか。もし泊まれることになれば、また違う商品が出来てくる。ただ通過して一時的に体験するのではなく、宿泊する事によって観光商品が生まれる。特に農業体験などは宿泊する、しないで全然違う。そこを考える必要があると感じる。

(2) 平成30年度実施予定事業
(事務局より資料説明)

<委員長>

百人衆の事だが、情報を集めて発信するのが百人衆だと思うが、もっとPRする百人衆がないと思っている。他でよくやっている観光大使みたいなのはどうか。つまり今ここにいない人、美里に縁があって、あるいは美里出身で他で活躍される方に美里をPRしてもらおう。私の友人で何人か観光大使をやっているが、年間500枚名刺を配っている方もいる。パーティーで名刺を配っても、もうあなたの名刺は何枚も持っている。と言われるくらい、とりあえず配る。やはり郷土愛もあるので、もう一回縁があれば自分が一生懸命やってあげようと思う。それから35名が十分ではないが、集める方は確保出来ているのだから、もっと企画される方を100人集める方が意味ある。もちろん美里出身の方が、活躍しているの理想だが、そうでなければ、工業団地の企業で、本社から来て戻られた方に、強制的になってもらう。たぶんNOと言う方はいないと思う。そういう工夫をする。あるいはこの中でも、よくどこかに出かける方になってもらう。また酒造の社長や営業部長などは年中全国行っている、そういう方になって頂く。是非それをやっていただいて、こうした取組みを活かしてほしい。

また、最後の地域連携に関する事にインバウンド誘致に向けたPRがあるが、何をどうやってPRするか。

<事務局>

今年も実施した体験モノを考えている。調査をした訳ではないが、工芸体験や座禅体験が興味あると思われるので、PRとしては体験物が今メインで取り組んでいきたい。食については国によって好き嫌いがあると思われるので、体験モノをベースに考えている。

<委員長>

食をアピールする場合、どんな物か。

<長谷川委員>

ベジタリアンは別として、好き嫌いはあまり気にする必要は無いと思う。

<委員長>

こちらであまり選ばない方がいい。我々が持っているものは全部見せて、選ぶのは相手。我々が選んでしまうと幅が狭くなる。

今やっている中ではそれほど大きな費用が発生するような物もないと思うので、本年度実施したもので成果に結びつけられるようなものを中心とする。

他にはあるか。

<高梨委員>

DMOの推進の部分だが、研修会を開くのは大事な事だし、推進してしてもいい。よく日本版DMOの研修は山ほど聞くが、それを踏まえた美里としてのDMOをどのように活用していくかの話をそろそろしなければならぬ。事業が来たから実施する、みたいなバタバタとした形になってしまう事を懸念する。そろそろ定義付け、目的、内容など、その計画ビジョンを作成する時期にきていると思う。その辺をこの実施予定事業の推進に取り込んで推進しななければならないと思う。

<委員長>

確かにDMOはカバン大きくして何でも入れてしまいがち。美里版DMOが得意な部分、また何が出来るかを、具体的に言葉にしていくタイミングかもしれない。

<高梨委員>

前回の推進協議会のときに、これは2、3年かかるとの話が出たが、もう1年経ってしまった。これかれら取り組むのに、1年がただの研修ではもったいない。将来的に活用できるシステムと思うので、もう少し具象化した方がよいと感じる。

<委員長>

ご出席に委員の方々は、それぞれの分野のエキスパートなので、そういうご意見をいただきたいと思う。

4. その他

○観光まちづくり推進協議会の委員の任期について

<事務局>

委員の任期について、今は設置要綱で3条3項に基づき委員の任期は1年とするとなっているが、アクションプランの計画が平成32年度までとなっている。1年ごとに選定もひとつの方法だが、始めから携わっている委員も多いので、2年か3年で設定したい。3年は平成32年度のアクションプランの終了にあわせてだが、観光振興計画期間だと平成37年度が終了年度なので任期は1年余る。2年であれば平成37年度で丁度任期が満了する。事務局としては2年でお願いしたいが、委員の皆様からご意見を伺って決めていきたいのでよろしくお願ひしたい。

<委員長>

皆さんどうか。2年にするメリットはあるのか。

<事務局>

2年にすると観光振興計画の期間内でキリ良く終わることができる。3年にすると1年余ってしまう。

<委員長>

もう一つは、やはり2年の間にどういう方向になるか分からないので、その時にまた必要な方に入ってもらう必要性もあると思うが。

<事務局>

今やろうとしているアクションプランに掲げる事業が、評価し検証したうえでこれは違っている、中々実績が伸びないという話になってくると、違った見方が必要になってくると思うので、そうした時に新しい人に入ってもらうという方法もあると思う。そうすると任期期間もそんなに取らなくても1年でもいいと思うが、できれば2年ではどうかなと。

<委員長>

この意見について皆さんどうか。

<高梨委員>

協議会はこれからも続いていくのか。

<事務局>

後期のアクションプランがあるので平成37年度までは最低でも継続する。平成38年度以降も取り組みなどがあるので続けていきたい。ただ、平成38年度以降の話はまだしていないので、ひとまず平成37年度を区切りと考えている。

<高梨委員>

複数年に魅力を感じない。その都度の選考がわずらわしいのであれば、再任を妨げないとすれば良いのでは。

<事務局>

すでに要綱3条4項に書いてある。

<高梨委員>

そうであれば、複数年にする必要がないのでは。委員としては1年でやってきて全然不便には感じなかったが、委員の皆さんが複数年でいいということであれば複数年でよいが、私は、そのメリットは感じられない。

<委員長>

色々のご意見はあるようだが、事務局が進めやすい形でお願いしたい。

<事務局>

再任ということでまたお願いすることになると思うが、そのようにさせていただきたい。

○その他

<委員長>

その他で何かあるか。

<阿部委員>

資料については、当日配付ではなくて事前にいただければ、内容確認できるのでもう少し議論ができると思う。

<事務局>

来年の協議会からはそのようにしたい。

<委員長>

その他何かあるか。

<事務局>

来年度も協議会は、10月と2月の年2回を開催予定しているので、引き続きよろしくお
願いしたい。

5. 閉会（副委員長 長谷川委員）

これをもちまして、会津美里町観光まちづくり推進協議会を閉会とする。